

台風24号に対する農作物の技術対策

平成30年 9月27日

利根沼田農業事務所普及指導課

大型で非常に強い台風第24号は、9月27日12時には宮古島の南東約550kmにあって、ほとんど停滞しています。台風は今後ゆっくりと北上し、29日頃には沖縄・奄美にかなり接近する見込みです。その後は北東に進路を変え、30日頃は勢力を保ったまま西日本にかなり接近するおそれがあります。

今後、進路によっては県内でも局地的に激しい雨と強風が予想されますので、農作物や農業施設の管理について、早めに対策を行ってください。

I 共通事項

- 1 事故防止の観点から台風接近時のほ場見回りは避け、大雨や強風が収まってから行うこと。
- 2 局地的な大雨が予想され、ほ場が冠水する恐れもあるので速やかに排水ができるように備えること。これまで冠浸水したことのある地域については、前例を参考にして重点的な対応を図ること。
- 3 河川及び用水の増水並びに土砂災害の恐れがあるところでは、作業の安全確保を第一としつつ適切に対応すること。
- 4 薬剤散布にあたっては、農薬ラベルに記載されている使用基準や注意事項を必ず守り正しく使用すること。

II 普通作物

1 水 稲

(1) 事前対策

- ア 既に成熟期となっており、収穫可能な場合は台風接近前に収穫する。
- イ 大雨に対応できるよう、用排水路の点検・整備を行う。
- ウ 風雨による影響を軽減させるため、かん水可能なほ場においては台風接近前に湛水状態としておく。ただし、倒伏しているほ場においては排水対策を優先する。

(2) 事後対策

- ア 台風通過後のフェーン現象(高温・乾燥・強風)による品質低下を防ぐため、風がやむまで湛水管理とする。
- イ 浸水や冠水の被害を受けたほ場は、速やかに排水を図るとともに土砂等が流入した場合は速やかに排出する。
- ウ 倒伏した場合は、速やかに排水し成熟状況を見極めて早めに収穫する。成熟期まで期間がある場合は、できる限り株を引き起こし水面や田面に穂が接触しないようにする。収穫期に穂発芽等の品質低下が認められる場合は、刈り分けを行う。

2 大 豆

(1) 事前対策

水田では用排水路の点検・整備を行い、ほ場への水や土砂の流入を防止する。また、排水溝の整備など排水対策を講じておく。

(2) 事後対策

冠水及び滞水したほ場は、速やかに排水対策を講じ、根の機能回復を図る。

Ⅲ 畜産

1 飼料作物

(1) 事前対策

降雨により草地や飼料畑に水や土砂が流入する恐れがある場合は、防水や排水対策を実施する。飼料イネ、飼料用米については水稲の項を参照。

(2) 事後対策

ア 飼料用トウモロコシ

水田等の栽培ほ場が滞水している場合は、速やかに排水溝を設け、湿害による生育不良を最小限に食い止める。

倒伏及び茎の損傷等が著しく回復が期待できない場合は、青刈り利用またはサイレージ利用とする。

倒伏したものを青刈り利用する場合は、若刈りのものを一度に多量給与する事は避け、乾草等を併用しながら給与量を調節する。また、サイレージとして詰め込む場合は、発酵品質改善のために乳酸菌、糖蜜、ふすま等を添加して品質向上に努める。刈り取りに際しては、土砂等の夾雑物の混入を極力避ける。

イ ソルガム

基本的に飼料用トウモロコシと同様に対応する。

ウ 牧草類

生育が進み草丈が伸びているものは倒伏が予想されるので、速やかに刈り取りを行い、茎葉の汚染状況を見ながら利用する。

エ イタリアンライグラス、エン麦

ほ場に土砂が流入したり流出した場合は、堆肥等の施肥を行い再度播種する。

オ 飼料イネ・飼料用米

飼料イネは倒伏した場合、サイレージとしての品質が落ちるので、ほ場の状態を確認しながら収穫を行う。収穫は土砂の混入を避けるため高刈りとし、乳酸菌等を添加して良質なサイレージ調製を行う。その他の対策は水稲の項を参照。

2 畜舎及び付属施設等

(1) 事前対策

ア 畜舎

屋根や窓及び入り口の点検を行い、必要があれば補修や補強等を実施する。雨や風が畜舎内に吹き込まないように戸締まりを行う。

イ 堆肥舎やハウスかく拌処理施設

施設の点検を行い、窓や入り口は戸締まりを行う。雨水の施設内流入や尿汚水が流出しないよう施設及び堆肥の管理を行う。

ウ 飼料庫、農業機械・器具格納庫

建物の点検を行い、必要があれば補修や補強を実施する。飼料、農業機械・器具は雨にさらされないよう管理する。

(2) 事後対策

ア 雨が畜舎内に吹き込んだ場合は、敷料等の交換を行って畜舎内を乾燥状態に保つ。

イ 養分の低下した飼料作物を給与する場合は、栄養価、嗜好性にも配慮し、家畜の生産性が低下しないように注意する。

IV 野菜

1 事前対策

- (1) ハウスの被覆資材の傷んでいる箇所は、風雨が吹き込むので修復しておく。
また、緩んでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。
トマトは、マルハナネットの隙間などから直接風が吹き込まないように確認するとともに、ハウスが持ち上がらないように強化対策を行う。
- (2) 雨水がたまりやすいほ場は、事前に排水溝を掘っておく。また、ハウス内に雨水が流入しないよう、土のう積み等の防水対策を図る。
- (3) 露地野菜の支柱や誘引線及びほ場まわりの防風網は、あらかじめ補強しておく。
- (4) 果菜類等で収穫期に達しているものは、早めに収穫して被害を最小限に抑える。
- (5) アスパラガス・ウドは、事前にマイカー線等を張り、倒伏防止対策に努める。

2 事後対策

- (1) ハウス施設やほ場に浸水した場合は、早期に排水溝を掘り排水に努める。
- (2) ハウスや防風網を点検して、損傷箇所があれば早めに補修する。
- (3) 茎葉の損傷や湿度の上昇により、病害の発生が助長されるので適用農薬を散布する。特にレタス・キャベツ・ハクサイ・ダイコンは、細菌性病害が発生しやすくなるため、適用薬剤を速やかに散布する。農薬散布においては、使用時期の収穫前日数に注意する。
- (4) 天候回復後、草勢回復のために追肥や葉面散布を行う。ホウレンソウは、湿害に弱く、葉が黄化すると回復が遅れるので葉面散布等を行って生育を促す。
- (5) 排水後土壌表面が固くしまっているほ場では、土壌が乾燥し、ほ場に入ることが可能になったら浅く中耕する。
- (6) 果菜類で被害を受けた果実は摘果し、着果負担を軽くさせて草勢回復を図る。
- (7) 露地ナスなどの倒伏した果菜類の株は、可能な限り起こすとともに支柱や誘引線への誘引を行う。ネギが倒伏した場合も丁寧に起こし、軟白部が曲がるのを防ぐ。
- (8) 育苗中や生育中の果菜類などでは、台風通過後に天気が急激に回復するとハウス内が高温となるので、天窓やサイド換気を速やかに行う。また、遮光ネットを利用し、強光による葉焼けを防止する。
- (9) 収穫した野菜は、傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、流通中に発生する荷傷みや腐敗の発生を防ぐ。

V 果樹

1 事前対策

- (1) 多目的防災網や防風ネットの張りを点検し、緩んでいるワイヤーや紐は張り直してネットがずれたり、飛ばされないように補強する。また、ネットが破れている部分は補修する。
- (2) トレリスは、隅柱・中柱の横ぶれ、架線の張り等を点検し必要に応じ締め直す。
- (3) ブドウ等の雨除けビニールが被覆してある場合は、飛ばされないように補強するか、場合によってはビニールを取り外す。
- (4) 収穫期を迎えている果実は、事前に収穫を完了する。
- (5) 幼木やわい性台リンゴ樹は、支柱や添え木を点検し不備な場合は、支柱や紐を取り替えるなどの補強をする。また、成り枝(結果枝)は支柱や吊り紐を外して風になびくようにする。
- (6) 高接ぎした樹では、接いだ部分から折れやすいので添え木で補強する。

(7) 園内に水が溜まらないように排水溝を掘る等、早期に園外に排水できるよう十分な対策を行う。

2 事後対策

(1) 果実のすり傷、葉の裂傷等から病害発生のおそれがある場合は、速やかに適用薬剤を散布する。なお、薬剤散布にあたっては使用基準を厳守する。

(2) 浸水・滞水している園では、速やかに排水溝を掘る等して排水に努める。

(3) 倒伏や傾いた樹は、回復可能なものは出来るだけ早く起こし、盛土や支柱で固定し、地下部とのバランスをとるために適宜枝の切り詰めを行う。

(4) 枝が裂けた場合は、針金・ボルト等で固定する。回復不能な場合は切り落とし、切り口は塗布剤で保護する。

(5) 枝の損傷や落葉が甚だしい樹では、果実肥大や品質が低下するので再度着果数の見直しを行う。

(6) 落葉が激しい場合は、幹や太枝に石灰乳等の白塗剤を塗布し、日焼けを防止する。

(7) 樹勢回復のための追肥は、被害直後には行わず、礼肥の時期に樹勢に応じて施用する。

VI 花き

1 事前対策

(1) 雨水のたまりやすいほ場では、周囲に排水溝を掘り排水に努める。また、ハウス内に雨水が流入しないよう、土のう積み等の防水対策を図る。

(2) ハウスの被覆資材など傷んでいる箇所は、風雨が吹き込むので修復しておく。また、緩んでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。

(3) 倒伏しやすいキク等の切り花類では、十分に土寄せを行うとともにネットや支柱を補強しておく。

2 事後対策

(1) 冠水・浸水したほ場では、速やかな排水に努めるとともに肥培管理を的確に行い、生育の回復に努める。

(2) ハウスや支柱等、栽培施設を点検して損傷箇所があれば早めに補修する。キクなどの電照施設においては、速やかに作動状況の点検を行い、電照処理等が確実に行われるよう確認する。

(3) 茎葉に付着した土砂は、動力噴霧機等で洗い流し、生育促進を図る。

(4) 切り花類等で株元が土砂で埋まって深植え状態になったものは、早期に土砂を取り除き天候の回復を待って浅く中耕する。

(5) 切り花類の倒伏したものは、できるだけ早く起こして茎や花穂の曲がりを防ぐ。

(6) 枝物類・切り花類では、強風によって折損した茎葉の整理と薬剤散布を的確に行い、病害の発生を防止する。

(7) 台風通過後は、吹き返しの強風に充分注意する。

(8) ハウス施設では、台風通過後に天気が急激に回復するとハウス内が高温となるので、天窗やサイド換気を速やかに行う。また、遮光ネットの利用などにより強光による葉焼けやしおれを防止する。

Ⅶ 養 蚕

1 事前対策

- (1) 蚕室への風雨被害を防止するため、屋根や窓及び入り口の点検を行い、必要があれば補修や補強等を実施する。また、雨や風が蚕室内に吹き込まないように戸締まりを行う。
- (2) パイプハウス等の簡易飼育室は、補強・破損箇所の補修等を行い、風で飛ばされないよう対処する。
- (3) 過去に冠浸水被害を受けた桑園は、排水溝を掘る等の十分な排水対策を行う。

2 事後対策

- (1) 飼育中の蚕室・上蔭室は、通風換気に注意して適正環境に調整する。
- (2) 飼育に使用する桑葉が損傷している場合は、葉質低下が早いので長期保存を避けるとともに冷所での保存を心がける。また、1回あたりの給桑量を少なくして給桑回数を増やして飼育する。
- (3) 冠浸水の被害を受けた桑園は、速やかに排水を凶るとともに病害虫の発生原因となる冠水した条桑は伐採して適正に廃棄する。
- (4) 新植した桑の倒木は、早急に起こして根回りに土寄せして固定する。
- (5) 既存桑園の倒木は、ロープ等で結束して起こし、飼育中であれば優先して使用する。泥はねした倒木は、伐採して適正に廃棄する。